

令和2年度第1回恵那市総合教育会議議事録

日 時 令和2年7月28日(火) 午後4時00分～午後5時02分

場 所 恵那市役所西庁舎4A会議室

会議次第 1. 市長、教育長あいさつ

2. 議題

(1) 新型コロナウイルス感染症対策の教育の現状について

(2) GIGAスクール構想について

出席構成員：恵那市長

(6名) 教育長

教育委員

小坂 喬峰

大畑 雅幸

鎌田 基予子

樋田 千史

西尾 修欣

村松 訓子

事務局： 副教育長

教育委員会事務局長

教育委員会事務局次長

教育総務課長

教育総務課係長(記録)

安藤 一博

長谷川 幸洋

梅村 浩明

西尾 克子

古屋 恵子

開会（午後4時00分）

■事務局（西尾教育総務課長） 令和2年度第1回恵那市総合教育会議を開催します。
設置要綱第5条に基づき会議を公開し、第6条に基づき議事録も公表します。

1. 市長、教育長あいさつ

■市長 こんにちは。本日は第1回恵那市総合教育会議にお集まりいただき、ありがとうございます。本日の主なテーマは新型コロナウイルス感染症対策と、GIGAスクールについてです。新型コロナウイルスですが、恵那市では4月に3の方が感染され、先週7月21日に4人目の方が感染されました。このような中、7月22日には、新型コロナウイルス感染症に関する教育連携会議を開催し、教育に関してのご意見を頂きました。その会議でも申し上げましたが、今回の新型コロナウイルスで社会全体が一瞬止まってしまい、経済活動も抑えられ、社会活動も止まった中で、大きな影響を受けられた方として恵那市では二つのパターンがありました。一つはお年寄りです。定期的に出掛けて、歌を歌ったり、おしゃべりをしたりする方の生活が止まってしまいました。今後も自粛が続くと、体力的に衰えたり、少し認知が入ってしまったりといろいろな心配があります。そうならないためにどのような対策ができるのか考えているところです。もう一つは、子どもたちです。3カ月もの休校を経て、最近では大雨による休校もありました。このようなことは過去にはなかったかと思えます。とりわけ中学校3年生のお子さんは、受験を控える中で、非常に心配していると思えます。中学校3年生の双子の姪と甥が岐阜市にいますが、休校中あまり勉強をしなかった、またすぐ近くでコロナの感染者も出ているため、とても心配だと親が言っていました。そのような中、市または教育委員会ができることは何かが重要となります。連携会議でもお話をお聞きし、学校の中での感染症対策、授業を止めず、いかに続けていくことができるかなど、できる限りの対策を考えているところです。授業については、GIGAスクールの話にもつながってきますので、皆さんからご意見が頂けたらと思えます。

GIGAスクール構想については、本日の資料にもありますが、いろいろな部分で、実施すべきことがまとまってきました。GIGAスクールは文部科学省が何年かをかけて実施しようとしていたことが、コロナ感染症により大きく前倒しされ、日本中が同じことを実施しようとしています。今心配していることは、全国で同じことを実施するため、平均的なことを行っていて本当にいいかということです。以前はLL教室があり、英語の授業はLL教室で行われていました。すべての学校にLL教室を作りましたが、結局利用されなくなりました。それは作ることが目的となってしまう、そこで何を行うかが決まっていなかったこともあります。パソコン教室も同様です。みんなが一斉に実施するから実施するのでは目的を見失ってしまいます。恵那市はずっとパソコンやタブレットを入れるべきだと動いていましたが、今回のGIGAスクールで大きな波に飲まれる形となりました。この中で、やはり自分を見失ってはいけなくて、改めて市としてどういうことに取り組み、子どもたちに何を与えたいか、何をしてあげたいかを考え、いろいろな組織も作り、体制も整え始めたところです。ぜひ、皆さんからご意見を

頂き、これだけは実施してほしいということを盛り込みながら、実現していきたいと思っています。GIGAスクールは大きな話です。その中でいろいろな使い勝手のシーンがあります。私はこの部分について、子どもたちに何をしてあげたい、この部分をもう少し子どもたちのために使わせてあげたい。それを一つずつ実現させることが恵那市なりのGIGAスクールのアクションプランになると思っています。短い時間ですが、活発なご意見を賜りますようお願いいたします。

- 教育長 定例会に引き続き、よろしくお願いいたします。本日のメインはコロナへの対応、GIGAスクールに関連する意見交換になります。この長期の臨時休業の間、本当に歯がゆかったというか、気をもみました。もし、オンライン授業ができるようになっていれば、だいぶ手当てができたのにと感じていました。この3カ月間を振り返ると、市長部局のバックアップのおかげで、教育委員会の管轄の、やらなくてはいけないこと、手当については、恵那市の学校が遅かったとか、手薄だという言われ方はされませんでした。この間、教育長同士の意見交換の場が何回かあり、恵那市の給食提供は、早くに対応していたとうらやましがられ、私自身はうれしかったところです。今一番心配していることは、子どもたちの学力です。都市部の教育長は、私ほどあまり危機意識を持っていません。都市部では6月から学校が再開して、中学3年生の実力テストを実施したところ、結果が伸びたそうです。おそらく塾や通信教育などにより、勉強している子は勉強していたということだと思います。私たちの地域では子どもたちも学校に頼っている部分が非常に大きいため、私たちが発信したり、ある程度用意したりしないと、まだまだ主体的に自分でやっていくという雰囲気になっていません。こここのところをこの夏場から秋にかけて強化していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 議題

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策の教育の現状について
- (2) GIGAスクール構想について

- 事務局長 新型コロナウイルス感染症対策の取り組みについて、資料に基づき説明。恵那市の新型コロナウイルス感染症対策の取り組みとしては、感染症防止対策、教育関連、市民生活の安全確保と支援、市内企業・事業所の支援という4本の柱で行っている。その概要として、感染症対策では、イベント等を自粛してきたこと、市役所の対策としては、テレワーク、テレビ会議を開催。またマスクとアルコール等を確保し、高齢者福祉施設、教育・保育施設、保健センター、文化スポーツ施設に配布した。また相談窓口としてコールセンターを設置し、市民からの相談に対応した。正確で的確な情報発信としては、広報えな、告知放送、市民メール、Facebookを活用した。市民メールとFacebookに関しては、80回情報発信を行った。教育関連では、子どもの居場所として、放課後児童クラブ、コミュニティセンター、学校の一部を開放。保護者の負担軽減として、放課後児童クラブに給食を提供し、家庭で過ごす子どもたちに対しては商品券を配布した。また6月から8月まで給食費を無償とした。支援を要する子どもへの対応としては、こども園で受け入れを実施。大学生など修学を断念することのないよう奨学制度の拡充。子どもの感染

症対策として、通学バスで過密にならないように、保護者に送迎していただけた場合の補助金制度を実施。園児の家庭での過ごし方ということで、短編動画を16本作成し、えなスクールネットワークで配信した。再開に向けた感染症対策では、スクールカウンセラーの対応強化、給食トレーを全児童生徒分購入。またこども園の再開に向けては、読み聞かせ用の機材やパーテーションを購入した。市民生活の安全確保と支援では、社会教育施設を閉館。小学校の臨時休校に伴い、青色防犯パトロールの強化し、5月25日からの登校に関して、6月5日まで安全指導を実施した。市民に広く募集をかけて手作りマスクを募りこども園、小中学校に配布した。児童手当を受給する世帯に対して、国と市独自で各1万円の給付支援を行った。そのほかにも一人親世帯に対しては、子ども一人につき1万円の商品券を配布。市内企業・事業所支援では、プレミアム商品券の販売とカッとく！応援チケットを発行し、飲食店、観光施設の応援を実施した。

- 副教育長 教育関係の支援について、コロナ感染症対策とGIGAスクール構想と合わせて、資料に基づき説明。学習支援として、臨時休業中の取り組みについて説明。今後の取り組みとしては、アミックスコムとの協力を得て教育番組を作成。番組制作に向けて、情報交換、共有を始めた。GIGAスクール構想の実現に向けては、ICTを使った学習環境の充実のために、児童生徒全員へタブレットを配布し、学習支援ツールの充実やICT教育支援員の配備等を行うよう準備を進めている。また恵那市ICT教育推進本部を設置し、現在までに3回のICT教育推進本部会議を実施した。第1回の会議では、ICTを教育で活用することについての、現状と課題について意見を伺った。第2回では、ICTを教育の中に取り組み、できること、やりたいことについて、本部員からのアイデアや参考意見を伺い、タブレット端末の選定についても意見を頂いた。第3回では、さらにICTの活用できること、やりたいことについて学校の教職員から頂いたアイデア等を列挙し、それを基に本部員から更なる意見を出していただき、そのまとめ方についてアイデアを頂いている。

今後、高速大容量通信ネットワーク整備工事およびタブレット端末配備については、現時点で準備中。学習支援サポートでは、ケーブルテレビを利用した学習支援を推進していくため、未加入世帯に対するケーブルテレビの設置支援あるいは、利用料金の助成を検討していく。また、一人ひとりの特性に応じた個別最適化アプリの導入を図るため、算数、数学について、個別でも学習ができ、授業でも活用できるアプリケーションの導入について、総合的に検討をしていく。今後、臨時休業となった際、子どもたちの学びを止めずに、家庭に居ながら学習ができる状況を生み出すため、各家庭でのWi-Fi環境、インターネット環境について、学校以外における学習支援環境を整備するための調査を実施し、状況把握に努めている。調査結果によって、ケーブルテレビのネットワーク、あるいは普通の電話回線などによりネット環境を整える方向にしたいと考えている。就学援助費の受給世帯で、通信環境が整っていない家庭に対し、タブレット端末の配備時にモバイルルーターを貸与するよう計画している。

恵那市ICT教育アクションプランの案については、実際に学校のネットワーク環境が整えられ、児童生徒一人ひとりにタブレット端末が配備されたとき、どのような形で

学習、学びを進めていくかを中心に、具体的に実施していくことをまとめた内容となっている。内容は、子どもの学びの支援、家庭での学びの支援、コミュニケーションによる学び、先生の負担軽減、ICT環境整備の5つで構成されている。子どもの学びの支援では、学び合う環境づくり、自ら学ぶ、新しい学びの形についてとなっており、主に、ホワイトボードや画用紙ではなく、プレゼンテーションや交流ができるツールの活用、学校でも家庭でも友達と学び合うためのツールの導入を考えている。また個別最適化された学習アプリの導入、チャットを活用した質問コーナーやオンラインを活用した教育相談も検討している。新しい学びの形としては、ケーブルテレビを活用した学習番組の放送、市のウェブサイトを活用して授業をアップロードし、いつでも見ることができる、調べることができる状況を作ること。その他、教育コンテンツの制作、外部から学ぶ学習環境、先端技術を活用した教育も検討している。また、子どもたちの作品や学びの過程といった様子を記録していくポートフォリオも考えている。学びを止めない環境としては、テレビ会議システムを利用し、オンライン授業ができる環境の整備を考えている。家庭での学びの支援では、家庭学習として、宿題のオンライン配布と提出、個別指導ができるのではないかと考えている。家庭と学校のつながりでは、保護者とのコミュニケーションツールとして、家庭訪問や授業参観をオンラインでできないかと考えている。コミュニケーションによる学びでは、主に遠隔交流として、テレビ会議システムを活用した著名人の講演会や、海外や県外とをオンラインでつなぎ、異文化に触れる機会を作れるのではないかと考えている。また学校に居ながらにして地元の各種団体、企業等とのオンライン交流、部活動では外部講師によるオンライン指導を受けたり、市内外の生徒会同士での交流ができたりしないかと考えられる。すでに実施している学校もあるが、教職員同士の交流および研修もできると考えている。先生の負担軽減では、健康管理、校務支援システムの導入とツールやアプリの活用。スキルアップとして、代々の教員の技術を伝えることもできるかと思っている。修学旅行・社会見学などの学校行事は仮想的な空間の中で経験できるのではないかと考えている。ICT環境整備については、学校における安定したWi-Fi環境の整備、家庭におけるケーブルTV視聴とWi-Fi環境整備の支援、全ての児童生徒および教員にタブレット端末を配備、授業支援ツールや学習アプリ等の充実、円滑にICTを活用した授業を展開するためのサポート、情報モラルについて、となっている。

- 教育総務課長 ありがとうございます。今、事務局から議題に沿って説明がありましたが、何かご質問はありませんか。
- 鎌田委員 教育アクションプランの(3)新しい学びの形の内容に、「教育番組を制作し」とありますが、すでに制作に入っていますか。
- 副教育長 一部はすでに放送をしていますが、今後の番組はまだ制作していません。
- 鎌田委員 番組の所管は学校教育課ですか。
- 副教育長 はい。
- 鎌田委員 実際に番組を制作しているのは、どなたですか。どんな番組かイメージできませんが。

- 副教育長 内容にもよりますが、授業であれば、学校の職員に協力していただく形にはなりません。
- 鎌田委員 学校教育課の誰が担当ですか。
- 副教育長 ICT教育推進室と教育研究所になります。
- 鎌田委員 プロではないということですね。アミックスはプロだと思いますが。
- 副教育長 撮影や編集などはアミックスコムにお願いする形になると思います。その辺については現在アミックスと協議中です。
- 鎌田委員 教育番組としてどの程度放送するのか、どんな枠で放送するのか、まだ分かりませんか。
- 副教育長 検討しているところです。
- 西尾委員 関連して質問です。アミックスで制作した番組は、広い意味で恵那市の教育番組ですが、権利、著作権はどこに帰属しますか。
- 副教育長 教育委員会に帰属する形にしないと、放送ができないと思います。手順を踏んで実施していきたいと思います。
- 西尾委員 少し視野を広げ、他の市町村の教育委員会で同じような番組を作っていた場合、お互いに乗り入れたり、借用したりすることはできませんか。これはとてもいい意味で世界が広がるかと思います。仮にそういうことができるのであれば、一つの方法として考えるのもいいのかと思います。提案です。
- 教育総務課長 ほかよろしいですか。
- 村松委員 ICTの環境整備中、(6)情報モラルで「事業費なし」となっていますが、情報モラルの講演会を開催したときに、講師への謝礼金などはありませんか。これは教員が子どもたちに教えるということで事業費がないということですか。
- 副教育長 この情報モラルに関しては、県から無償で講師を派遣していただけるため、そちらを活用していくことになると思います。ほかにも無償の方もみえますので、その方に依頼します。当然、教員が行う場合もあります。
- 村松委員 分かりました。
- 教育総務課長 それぞれご意見をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。
- 樋田委員 今の教育番組は、ホームページやネットから無料でダウンロードできると思います。各学校の先生が代表で英語や算数の授業をアミックスで放映していましたが、指導案を吟味していかないと、分かるようで分からないときがあります。先生に任せっきりにするのではなく、吟味する必要があると思います。教育番組として制作するのなら、誰に何をさせるかの指示が大事になってきます。ICT教育では、パソコンを使って子どもたちが授業を受けることになります。今度は、一方通行ではなく、お互いが見ることができるようになります。学び合いというのは、児童生徒と先生とのつながりも大事になってくると思います。これからの授業としては、一方向ではなくオンラインによる双方向が大事です。番組を流し続けても学力は付きません。今年度の学力調査もなくなったため、子どもたちにどれだけ力が付いたか分かりません。コロナで休業になっても、進めなくてはいけない単元があります。時間がないからといって、流してしまうこ

とはいけません。立ち止まるところも必要ですし、子どもたちの理解度も調べる必要があります。以前は、その子がどれだけ学んでいるのか、どれだけ身に付いたのか調べるために教科テストを行っていました。今後のICT教育では、文科省がいう主体的にアプリを利用して確認するもので、その子にどれだけ力が付いたか、自分自身で判定もでき、先生も知ることができます。GIGAスクールを進めていくときに、大事にしていかななくてはいけないことは、機種を選ぶことを目的にしていけないということです。それは手段であって、目的は、子どもがどう学ぶか、どう学びやすくするのか、そのために必要な機種は何か。市長さんは詳しいので、何が子どもにとっていいかあるかもしれませんが、入札制度にかけると、安い機種になってしまうかもしれません。そうなったとき、果たして本当に目的に合っているのかどうかということも見ていかないと、予算も絡むことなので難しいかもしれませんが、何のため入れるのか、そのためにはこれを入れる、という手段と目標をはき違えてはいけません。子どもたちに力を付けていく、恵那市の子どもたちを本当に生き生きとして、頑張ってくれる子どもにすることが目的で、選ぶのは後の話です。これからのたくましい子を作るための一つ的手段として、子どもたちに力を付けるということが必要だと思います。大変いいことで、予算も大変かかることですが早く導入できるといいと思います。もう一つ気になることは、英語の力についてです。高校の校長先生の話ですが、恵那から来る生徒で英語の文法の力がないと言われます。そのため、0学年からスタートさせているということを知りました。それは、先生の指導力の差により、英語の文法がついている子といない子の差があるということです。しかし、0学年でスタートすると、すぐ力を発揮してくる。パソコン教育を導入した際には、どの先生も同じように指導ができるよう、ICT教育推進本部のメンバーには力になっていただかないと、恵那市の中で、地域の格差、温度差が出てしまいます。その辺も力を入れて、始めていく。本当に一斉にスタートできる市の体制、指導力が必要だと思います。

■鎌田委員 3月2日以降にあった、全国一斉休校はもうないとは思いますが、今後、不幸にも感染者が出てしまった学校は、その校区で少なくとも2週間ぐらいは休校措置になると思います。そこでまた学校に行けない子が出てきてしまうと思われませんが、その際のガイドラインというか、実際、シミュレートした恵那市独自のものはありますか。

■副教育長 その後の学習ということですか。

■鎌田委員 はい。休校中の。

■副教育長 休校中のものではありません。

■鎌田委員 ないですか。休校措置は現実問題として、いつ起こってもおかしくない状況です。前回の休業中に思ったことですが、先生たちが一生懸命オンラインで流せる授業を作りましたが、必ずしも自分の学校の先生ではありませんでした。そうすると恵那市内の先生の授業である必要がないと思います。それなら上手な先生の授業を流し、担任の先生は解説などフォローする。そういうスタイルにできないかと思いました。担任の先生には、その先生にしかできないことに注力していただき、授業はプロフェッショナルな授業にする。それには学年に応じた対応も必要だと思います。小学校1年の子には、

担任の先生が実際に話し掛けるほうが効果的かもしれません。中学校3年生や小学校6年生など大事な学年のお子さんに向けては、プロフェッショナルな授業を行う。学習は本気になって考えなくてはいけないことなので、そのあたり現実問題として、すぐ動ける対策を取っていただきたいと思います。

■教育総務課長 ありがとうございます。

■西尾委員 動画をはじめ、ICT、コンピューターの類は道具です。道具は使いようです。上手にその道具を使えば、成果は大きなものが出ると思います。いくらいい道具でも使う人がその使い方を誤ったり、使い方を知らなかったりすると、成果は望めないと思います。やはり使うことから始めることも大切だと思います。その道具の使い方をまずはよく知る必要があると思います。最近のソフトは甲乙つけがたく、どれも同じような性能があると思いますが、まずはその道具に慣れるところから始めることが大切だと思います。

■村松委員 私が心配していたことは、教育長さんもおっしゃったように学力の低迷です。コロナで休校中も恵那高生は、先生方の動画を見ながらしっかり予習・復習している子もいれば、F i - W i 環境も整っているのに、全然見ずにゲームばかりしている子もいたそうです。コロナでの休校と、警報での休校が続き、また授業が遅れてしまいました。テストも中止になるなど、はっきりとしたデータがまだ出ていないため分かりませんが、テストで格差が出るのではと、心配されていると思います。いろいろな行事が中止になっても入試はそのまま、遅れている分を取り戻して、その差をいかに埋めるか。その手段としてICTにより、子どもたちの興味、関心を高めて、興味のない子を喚起し、授業を行うことが、先生方の手腕にかかってくると思います。先生方もこれを機会により面白い授業、より興味がわく授業を各方面から研究していただきたいと思います。コロナ対策など、いろいろなことで先生方の負担が大きくなりましたが、今だからより良いものにしていただきたいです。これを逆手にとり、いろいろなデータなどを使って面白い授業をしていただけたらと思います。休校も悪いことばかりではなく、不登校の子が休校明けに登校できるようになり、当たり前のように登校できているという事例も目の当たりにしています。そして、場面緘黙といって、6年も7年も言葉を出せなかった、言葉を発せなかった子がZOOMを使って先生と朝の会などを行っているうちに、「元気ですか」「元気です」と応答しなくてはいけなくなり、最初は身振り手振りだったが、順に言葉が出せたという中学生が身近にいて、保護者の方もすごく喜んでいました。こういう話を聞くと、タブレット授業というか、コロナを機会にいいこともあるのだと考えさせられました。

■教育総務課長 ありがとうございます。教育長さんいかがですか。

■教育長 いろいろご意見を頂き、ありがとうございます。高校の校長先生の話が出ましたが、私も直接聞いています。本年度、市費で元校長先生に英語教育に特化して、特に若手の教員の指導に当たっていただいています。恵那市の特性として規模が小さい学校が多く、数少ない教員では、先輩から学んだり、学び合ったりがなかなかできにくいのが現状です。まず子どもたちに力を付けるためには、教員の指導力を上げる必要があ

りますので、指導していただくことになりました。ICTに関しても、同様に市費で元校長先生に指導をしていただいています。長期の休業があったため、子どもたちの指導の場面はありませんでしたが、その間、対教員で行っていただいています。お二人の力をお借りし、先生方の指導力を上げていきたいと思っています。もう一方で子どもたちの学力が急に飛躍的に伸びることはありません。子どもたち一人ひとりの自らという部分である主体性が大切です。これがもう少し全体の雰囲気、自分もやらなくてはいけないとならないといけません。いくらその子に勉強しろ、勉強しろと言っても、周りの雰囲気にすごく影響されます。全体がもっと前向きになるよう、学校教育や家庭でも生かされるよう働き掛けていきたいと思っています。今年は特別な年になってしまいましたが、自分たちが生徒の時代にコロナがあったからと、コロナのせいにして言い訳をするような子にたくありません。これを乗り越えられたと促していきたい。これは児童生徒だけでなく教員についても同じです。そのように恵那市の学校教育は持っていきたいと思っています。

- 教育総務課長 市長さん、皆さんのご意見を聞かれ、いかがですか。
- 市長 大変貴重なご意見を頂き、本当にありがとうございます。特に教育番組の話が出ましたが、これも恵那市の一つの特徴だと思っています。アミックスのように恵那市専属のようなケーブルテレビ局を持っている市は他にはなく、他市では広域的なケーブルテレビ局になります。恵那市はほとんど恵那市だけのケーブルテレビ局のため、市の要望には沿っていただけます。番組表の話も最初に出ました。番組表には出てきませんが、アミックスは現在2つのチャンネル持っています。番組表が出るのはメインのチャンネルになりますが、裏チャンネルについては、私はアミックス教育テレビにしてほしいと言っているぐらい、24時間、学習番組を流してもらえたらいいのではと思っています。あとは必要な番組を録画していただき、必要な時に子どもに見せるということもできるはずで、今後は、どこにどれだけのコンテンツを入れていくかということになります。市の意向を聞いていただけるので、そんな意味では良い番組をたくさん作って、蓄えていくことは将来に向かっての資産になると思っています。ぜひそんなところも取り組んでいけるといいと思っています。それからハードウェアの整備よりも何を行うかです。その話はまさにその通りで、それを目標に、教育委員会で、どういうテーマで、どういう視点で、何を求めるかを念頭に、このアクションプランを作成しています。アクションプランをベースにハードウェアの整備を考えていると思っています。ぜひ後ほどでも結構ですので、アクションプランをご覧いただいて、ご意見がいただけたらと思っています。それから、興味を持ってICTを使い学ぶことの大切さについてご意見をいただきました。今のコンテンツそのものもずいぶんとレベルアップしていて、興味を持つようなアプリができています。私が見たのは、そろばんのソフトで「そろタッチ」というものですが、まるでゲームと同じです。だんだんレベルアップしていくと、日本から地球、アメリカへ行ったりブラジルへ行ったり、月へ行ったりするなどゲーム性が非常に高く、あつという間に空で暗算ができる。こんなこともあり、やはりアプリ、もしくはソフトウェアの性能が上がることで、子どもたちに興味を持たせることが自

然とできるような仕組みも今はあるため、そういうところは教育研究所で、いろいろなことを研究して、恵那市の子どもたちにあつたものを入れたらいいのではないかと思っています。全体を通して、昨年までの総合教育会議でもICTの話をしてきましたが、私も含めてICTの力をもしかしたら過小評価していたかもしれません。しかし、今コロナが終息し、いざこの段になれば、ICTの力を借りる以外に物事の解決のしようがないのではないかと私もそうですが、皆さん気付かれたと思います。これは諸刃の剣とっては非常に難しい話ですが、ICTの力はピンチをチャンスに変えることができます。それでハンディキャップを埋めることができますが、逆を言えば、ここからこぼれる可能性もあるということです。具体的にどういうことかということ、先ほどスタディサプリのように、東京の有名な予備校の先生が授業をやればいいのかという話がありました。これは非常に大事な話で、教える部分は先生ではなくてもいいという極論ができてきます。私たち恵那市も含めて、選ばれる学校をきちんと作らなくてはいけないですし、私は恵那市の経営全体を行っている中では、恵那市が他市に比べて教育にきちんと力を注ぎ、なおかつ住みやすく、子どもたちの安全も守ってくれている、こんなまちを作らないといけません。これをICTの力を借りたときに標準でいいのか、それよりも少しでもプラスに持たないと、選ばれないのではないかと。これは非常に重要なことです。例えば、先ほど英語の話が出ましたが、良い先生と悪い先生が混在していて、ICTを行うと、良い先生が授業をやればいいのかという話になってしまいます。そうすると、良くない先生はどこで活躍するのということになります。これはピンチでもあり、ピンチはチャンスでもあります。逆に選ばれる側、もしくはそのコンテンツを提供する側も、きちんと努力をしないと子どもたちに選んでもらえなくなる可能性が非常に高く、いい意味での競争ができ、競争によって質が高まります。もしくは皆さんのレベルが上がっていけば、これは恵那市にとってはプラスになると思います。そういう意味では、少しでも進化できる仕組みが必要かと思っています。いずれにしても、恵那市としては、人並みのGIGAスクールではなく、そこにプラスアルファの要素を書き加えていくことが何より重要で、それが恵那市の特徴になるかと思っていますので、ぜひご意見をいただけたらと思います。

- 教育総務課長 ありがとうございます。市長さんからいただいたご意見について、委員さんいかがですか。
- 西尾委員 今回のコロナに関し、とりあえず教育に関して言いますが、非常にお金も使っていただきました。アイデアもいろいろと出していただいているようです。先ほどからICTいわゆるデジタルな話を中心となっていますが、子どもはデジタルだけでは育たないと思います。アナログな場面も必要だと思っています。そういったデジタルとアナログの上手な組み合わせをこれからどんどん考えていく必要があると思います。市長さんにはいろいろなアイデアを出していただきたいと思っています。
- 鎌田委員 感染症対策の取り組みの中で、子どもの居場所づくりや保護者の負担軽減では、急な休校ということで、行政側も時間のない中、いろいろ決断しながら対応していただいたと思います。これに対する検証はされていますか。今後も起こりうる事態に対

しての備え、有効な手立てをするために、この施策がどうだったのかという検証はどうですか。次にまた休校となった時の子どもの居場所づくりということで、こういう策を打っていくという、あらかじめ準備があるとありがたいです。

■市長 特に、学童のようなところが一番課題になりました。環境的にも厳しいところもありましたので、そのあたりに手を入れないといけないと思っています。利用者のアンケートとは別に、運営事業者との話し合いは必要かと思っています。施設整備については時間がかかる話です。スタッフや補助金等は市も対応できますが、施設に関しては時間も要するため、早めに手を打たないといけないと思っています。

■教育総務課長 そのほかよろしいですか。ありがとうございました。本日予定しておりました議題につきましては意見交換が終わりましたので、以上で第1回総合教育会議を閉じさせていただきます。

閉会（午後5時02分）